

今年4月、お花見をしましたか? どこで? どんなサクラ?

わくわくした春を迎えるとき、サクラの花見は欠かせません。かつての花見は、貴族のものであり、春の訪れを感じるウメをめだたと言われています。また、稲作の神様である「さ」が山から下りてきて鎮座する場所「くら」という神様が座る木「サクラ」の下で、稲作に関わる人々が豊穡を願い、祭りをしたのが花見の起源とも言われています。

五日市では、お寺や神社など、一般の人に公開されている場所で様々なサクラを見ることが出来ます。日本で一番たくさん植えられている品種は、江戸末期に作られたソメイヨシノです。しかし、サクラは野生種を含めてたくさんの種類がありますので、今回は、その一部を紹介します。



シダレザクラ
開光院(五日市)



シダレザクラ
明光寺(伊奈)

シダレザクラの話

シダレザクラは、よくお寺で目にします。一般的にサクラは、整枝・剪定を嫌い大きくなるため、個人の庭に植えるには広さが足りないと思いますが、この品種が寺社に多い理由は分かりません。ご存知の方がいましたら、教えていただくと幸いです。

シダレザクラにもいくつかの系統がありますが、多くのシダレザクラはエドヒガンの突然変異で、遺伝的にはエドヒガンと同じといわれています。

そのため、エドヒガンの特徴といわれる愕筒(がくとう)の付け根が膨らんでいる特長はそのままです。



シダレザクラの花
明光寺



エドヒガンの花
白山神社(戸倉)

エドヒガンの話

エドヒガンは、その名称から栽培品種と思われる方もいますが、野生種のサクラです。

また、オオシマザクラとエドヒガンの交配雑種からソメイヨシノが生まれたことは有名な話です。

このサクラの大きな特徴は、長命であることが挙げられます。日本全国に樹齢1000年を越えるといわれるサクラの天然記念物や地域の保存樹木に指定されているサクラの古木のほとんどが、エドヒガンやシダレザクラです。

明光寺



← ウズミザクラ

サクラの種類としては、エドヒガンですが、花が散るとき、花びらが薄い墨色になるため、この名が付いたそうです。ウズミザクラとは、岐阜県本巣市の薄墨公園にある推定樹齢1,500年の古木を指しますが、今では、接木や挿し木で増えた苗が全国で植えられています。

五日市周辺では、玉林寺(五日市)と明光寺(伊奈)で見られます。

マメザクラ →

別名フジザクラ、ハコネザクラとも呼ばれるように、富士山麓に自生している野生のサクラです。樹高が低く、花も小ぶりのかわいいサクラです。

五日市周辺では、西青木平と徳雲院(乙津)で見られます。



西青木平

武蔵引田駅前



← オオカンザクラ

別名アンギョウザクラと呼ばれ、苗の産地である埼玉県安行市の名前が付いています。ソメイヨシノより1週間ほど早く咲き、色も少しピンクが強い種類です。あきる野では、武蔵引田駅前の安兵衛桜(やすべえざくら)に混ざって植えられています。

周りのサクラより一足早く咲くため、ご存知の方も多いたと思いますが、このサクラは、ソメイヨシノとは違う種類のサクラです。

育苗管理がしっかりしていなかった時代にソメイヨシノの苗に混ざって全国に出荷されたとの話も聞きます。

広徳寺



← ヨウコウ

最近流行のサクラで、オオカンザクラと同じく、ソメイヨシノより開花が少し早く、赤みの強い品種です。

五日市周辺では、広徳寺(小和田)や大悲願寺(横沢)で見ることができます。

おまけの話

サクラの花の咲き始めは白色が強く、花が終わりに近づくと、だんだん赤みが強くなり、サクラ色に変ります。種類や場所によって多少違いますが、多くのサクラでこの傾向は見られます。これは、花の中の鉄分が空気と触れることで、酸化して赤みが増すためです。最後は、サクラ色の花びらを散らしてサクラの花が終わります。

来年のサクラの季節には、ソメイヨシノではなく、色々な種類のサクラを散策しながら訪ね歩くのも趣のある花見となるのではないのでしょうか。(杉野)